

健康ネットワーク

C型肝炎が注目されています

ウイルス性肝炎の中で、肝がん発症のもとになるC型肝炎が注目されています。C型肝炎ウイルスは血液を介して感染します。感染すると7〜8割の人は持続感染となります。持続感染では自覚症状がない場合も珍しくありません。感染の有無は血液検査で判明します。過去に輸血や血液製剤を受けた人、長期間透析を受けている人などは、一般の人より感染の可能性が高いといわれています。

また非衛生的な状態での入れ墨やピアス、注射器・注射針の使い回しなども原因として考えられています。C型肝炎ウイルスの持続感染により20〜30年かけて肝臓は線維化が進み、次第に硬くなります。即ち慢性肝炎から肝硬変に至るわけです。線維化が進むほど肝がんを

発症する危険が高まるので、C型肝炎の患者さんは肝臓の専門医のもとで、定期的な検査で肝がんのチェックを受けることが大切です。治療は主として、インターフェロンの注射とリバビリン(内服薬)の併用です。体内からウイルスが排除されると、肝がん発症の危険が大きく低下します。完全に排除できない場合でも、病気の進行を遅らせることが可能です。C型肝炎は肝がんの原因の約8割を占めています。全国で約200万人のC型肝炎の患者さんがいて、昨年4月からC型肝炎のインターフェロン治療に対して、公的な医療費助成制度が始まりました。年間3万人の肝がん死亡が報告されている今日、注目すべき病気の一つです。

医師 神田 裕二

羽生昔がたり

時代の流れと共に生活様式が大きく変わり、家庭の行事(晴れの日)も消えてなくなりつつあります。昔から伝えられてきた年中行事をお知らせしましょう。

家庭の年中行事 二月(如月)

- 1日 二月正月 あいのこ 次朗の朔日
- 初午
- 3日 節分 豆まき
- 4日 初市
- 8日 針供養 ネロハ 事始め
- 11日 仕事始め(弥勒) 鋤入り(今泉)
- 15日 おかのえ講(今泉・三田ヶ谷・中岩瀬・下村君)
- 16日 十王様(上羽生)
- 17日 観音様(上新郷) 馬のり
- 19日 十九夜様(今泉・三田ヶ谷・下村君)
- 24〜25日 天神様のおこもり(子供だけ)
- 26日 愛染様(上羽生)

針供養

この日一日針は使わない。折れた針は豆腐やこんにやくにさして淡島様の掛け軸の前に供え、五目めしで祝います。おはりのお師匠宅で行うことが多いです。

折れた針を刺した豆腐等は、近くの神社に納めたり、針をぬいて食べたりします。神社からの帰りに笹の葉をもらって来ます。(村君)

淡島様は和歌山市加太町の淡島神社が本社で、祈れば婦人病によく効くといわれています。

ネロハ(羽生昔がたり1巻8話参照)

師走八日に寝る馬鹿と二月八日の寝ない馬鹿といつて、目かごを外に竿でかかげ魔よけとしました。早寝する日。

おかのえ様(庚申講)

六十日に一回ある男の集まりで、4〜10名位の講員で食器等には、名前が書いてあり決まっています。「話はおかのえの

子育てまめ知識

子供の泣きとの付き合い方 (幼児編)

1歳半になる女の子をもつ母親です。何かというと「イヤ、イヤ」と言っていて、思い通りにならないと泣いて騒ぎます。どう対応したらよいでしょうか。どうとらえたらよいか

子供たちの「イヤ」というのは自我の芽生えで、自分でやりたいという気持ちで育ち成長している証しなのです。でも、まだうまくできるわけではないので、まだから結局は泣いて騒いで終わるのです。でも、「やりたい」という気持ちで子供たちを発達させ、「できた」という満足感が自信を持たせるので、自我の芽は大事に育てていけると良いですね。

どう対応したらよいか

まず、やらせても良いことと危険なものでやらせてはダメなことを整理してみよう。日常生活の中でだんだんできるようになってほしいこと、例えば着替えや食事の自立などは最初から上手にでき

なくても、やらないと上手にならないのでやらせてあげましょう。でも、ご飯で遊び始めてしまったら、もうおしまいと伝え、片付けてしまう強さも大事です。

ただし、危険なことなどは本人がいくらやりましたがもやらせてはいけないう態度で「ダメ」と言い聞かせてください。大人の感情や状況によって注意する基準が変わるのは絶対NGです。

ママやパパが一貫して「ダメ」と伝えることで、子供は「泣いてもダメなものがある」と学びます。

自我の芽が育ち、自分に自信が持てるようになるまでには時間が必要です。できたことを一つ一つ褒め、お互いに喜び合いながら、おらかな気持ちで見守っていきましょう。

保健医療課 健康支援係

鳥島風月

俳句 (俳句連盟会員)

- 竹林の音高まりし夕しぐれ 下子林 関根 茂子
- まだ暮れぬ夜祭客の着ぶくれ 上新郷 関根 京子
- 秋の蝶忌日の窓に触れて行き 下子林 関根 照子
- 談笑を上げ焼餅ゆきわたる 上新郷 関根 章子
- 戯れに木の落葉に足のせて 桑崎 関矢 秀子
- 秋さぶといふこの沼のささ濁り 中央四 瀬田 芳子
- 大鳥居過ぎても牛歩初詣 上村君 五月女文字
- 銀杏の木盛り上る程もみづれる 今泉 高田 昭子
- 際立ちし落葉の中の木の白 中岩瀬 高橋 恭子
- ちいさき手熊手にぎつて肩車 中央二 田口 蒼雨
- 林檎狩北アルプスは晴れてをり 上川俣 田口はつ江
- 参道は風の抜け道木の葉散る 稲子 田口三子
- 今日の日も存分に染み冬紅葉 南 二田口 睦子
- 水神の鎮もりおはす冬の土手 上新郷 多田千代子
- 神の旅富士美しき道しるべ 南 三田辺つくし
- 紅葉の燃え立つ庭とつるし柿 ノスタルジアのめぐり漂つ 東七 富永 澄江
- 冬枯れし黒バラの刺茶に染まり 春を待つ問の身を守りつつ 上新郷 柿沼ノブ子
- 故郷は六十路すぎて今もなお ただ懐かしくありがたきかな 東六 根岸美津子



愛染様(中島家)

おめでとうございます

